



SENSHOJI
2022 YUKARI NEWSLETTER
since 1994

ゆかり通信
VOL. 288
令和4年1月

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2022年千正寺カレンダー 1月の言葉



雪原に優雅な丹頂の舞 / 丹頂ツル

眠れない夜を嘆く者は多いが、
目覚めた朝に感謝する者は少ない。

この言葉は、どなたの言葉は分かりませんが、よくお寺の掲示板などで、用いられる言葉ですね。何か失敗をして「あんな事しなければよかった」「もっと気を付けておけば…」などと、色々思い悩んで、眠れない事が時々あります。

しかし「喉元過ぎれば…」というように、それも一段落して、いつもの生活に戻ってしまうと、あんなに反省した筈なのに、心に決めたことはどこへやら…。今日もまた、自分が一番の様な顔をして、生きている自分に気が付きます(汗)。その上、酷い場合には「こんな悪い事ばかり重なるのは、きっと先祖の祟りだ！狐だ！蛇だ！オランウータンだ！」と騒ぐ人まで出てきます。そんな冤罪をかけられた蛇や狐は、溜まったものではありません。ご先祖様も、きっと「全部あんたが撒いた種だよ…(溜息)」と呆れ顔ではないでしょうかね～(笑)。

「妙好人」と呼ばれる真宗の熱心なご門徒は、仕事でも暇さえあれば「南無阿弥陀仏…」と、常にお念仏を申して生きて行かれました。「南無阿弥陀仏」とは「あなたを必ず浄土に迎え取り、仏に仕上げますよ」という阿弥陀様からの呼び声であり、その証しです。

真宗のご門徒は、寝ても覚めても命のある限り「あ～有難いな～♪決して見捨てぬ阿弥陀様が、いつもご一緒下さるんだな」と、喜び喜び生きて来られたんですね。

有名な妙好人、因幡の源左さんが夕立にあってびしょ濡れになって帰っていると、

住職さん「爺さん、よう濡れたのう」と言うのに対して、
源左さん「ありがとうございます。鼻が下に向いとるで有難いぞなあ」と答えたと言います。

たとえこの人生が、人様から見たら、貧しく辛い人生であったとしても、誰も、この人生を代わりに生きてくれることは出来ません。この人生を抱きしめて、「全ては仏縁！」と味わって行ける、逞しさを真宗のご門徒は、兼ね備えていたんですね。

先日、僕のYoutube動画『Youは是非とも仏教に！』にゲスト出演して下さった朴明子さんは、47歳の時に癌を発症し、余命1年との宣告を受けたそうです。治療が成功し、今年で4年目をむかえる彼女は、こう語ってくれました。

「ただこうして生きている事。この瞬間瞬間がすごく！本当は奇跡的であって、有難い事なんだなっていう事を、思い知りました。目も耳も鼻も、治療の後遺症が残っているんですが、息ができる、物が見える、聞こえる…。どれ一つとて、有難い事だったんだなと、今は実感できます」

「生きている…この瞬間瞬間が…本当は奇跡的…」彼女のこの言葉が、ずっと胸に刺さって、お念仏がこぼれて来るんです…(^人T) namo!

(文：桜庭尚吾法務員)